

会議録

会議の名称	第7回 西東京市地域コミュニティ検討委員会
開催日時	平成24年9月3日 午後6時30分～8時30分
開催場所	西東京市役所 田無庁舎 1階102会議室
出席者	委員：伊村委員（委員長）、伊藤委員（副委員長）、工藤委員、志村委員、菅野委員、丸山委員、望月委員、土方委員 事務局：協働コミュニティ課長、協働コミュニティ課市民活動推進係長、協働コミュニティ課市民活動推進係主事、株式会社エックス都市研究所
報告事項	(1) 地域コミュニティ活性化に向けた取組等の進捗状況 (2) 地域コミュニティ施策に係る視察報告（所沢市）
議題	(1) 西東京市地域コミュニティに関わる基本方針（検討案）について (2) 模擬事業の検討について (3) 西東京市自治会・町内会運営ガイドブック（案）及び西東京市自治会・町内会加入のご案内（パンフレット案）について
その他	(1) 次回検討委員会開催日について
会議資料の名称	資料 自治会町内会情報誌『まちむら118号』 (資料1) 地域コミュニティ活性化に向けた取組等の進捗状況 (資料2) 地域コミュニティ施策に係る視察報告（所沢市） (資料3) 西東京市地域コミュニティに関わる基本方針（検討案） (資料4) 模擬事業の検討について (資料5)（仮称）西東京市自治会・町内会運営ガイドブック（案） (資料6)（仮称）西東京市自治会・町内会加入のご案内（パンフレット案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>事務局：</p> <p>第7回西東京市地域コミュニティ検討委員会を開会する。まず、本日の議題を確認させていただく。</p> <p style="text-align: center;">議題の確認</p> <p>次に、資料の確認をさせていただく。</p> <p style="text-align: center;">会議資料の確認</p> <p>2 報告事項</p> <p>委員長：</p> <p>事務局より報告事項についての説明をお願いしたい。</p> <p>報告事項 (1) 地域コミュニティ活性化に向けた取組等の進捗状況</p>	

事務局：

地域で活動している組織や団体等に、地域コミュニティ検討委員会における検討内容の進捗状況を報告するとともに、地域コミュニティ施策における市及び地域コミュニティ検討委員会との連携について、各種組織・団体へ説明を行ってきた。

また、自治会・町内会現状調査については、北東部エリア、西部エリアについては現地調査が終了し、現在は、中部エリアの自治会・町内会長宅を訪問中である。中部エリアが終了次第、南部エリアの調査を実施する。現段階では、186 件に郵送調査を、60 件は現地調査を行って、246 件の自治会・町内会の存在を把握しているが、そのうち 144 件から回答をいただいている状況である。

調査対象としている組織から割り出すと調査の進捗率は約 7 割である。

先進自治体への視察については、平成 24 年 8 月 24 日に埼玉県所沢市へ視察を行っている。後ほど報告させていただく。

そのほか、「地域いーな通信 第 2 号」の発刊を今月予定している。内容としては、地域コミュニティ検討委員会の検討内容や先進市の取組について掲載する予定である。

委員長：

自治会・町内会調査の終了目標はどのようなイメージか。

事務局：

目標予定は年度内だが早い方がいいと思っている。

委員：

どのような形でまとまっていくのか、イメージがわからない。できれば、中間まとめのようなものがあるといい。

事務局：

調査内容は以前に行った調査の内容をもとに調査をしている。自治会長の情報を聞かせていただき、関係機関との情報共有を図りたいと考えている。

委員長：

白地図にどこが空白地域か、どこが埋まっている地域かなどの情報があると考えてよいのか。

事務局：

どの地区がどこの自治会かということは自治会自信も分かっていないところも多いため、今回は自治会の対象エリアについての質問は行っていない。ただし、この調査は毎年行うものであり、平成 25 年度以降については、できる限りエリアについても聞いていきたいと考えている。

委員長：

報告事項 2 について事務局より報告願いたい。

事務局：

平成 24 年 8 月 24 日に所沢市へ視察を行った。所沢市は市内 11 の地区に分かれており、それぞれの地区にある「地区連」が地域コミュニティ活動の中心的な役割を担っている。

自治会・町内会の加入率は 65 パーセントではあるが、加入率は低下傾向にあり、コミュニティ機能の低下を懸念されている。

所沢市では、「新たな地域コミュニティの構築」に向けた基本方針及び推進プランを策定しているが、基本方針については、庁内の幹事会で案を作成し、11 地区の自治連合会との意見交換会を通じて策定を進めた。

基本方針には、11 地区に地域コミュニティの窓口となる「まちづくりセンター」を設置することが示されているとともに、地域課題を解決する地域コミュニティ関係団体による「地域ネットワーク」の組織化を進めることが示されている。

現在市内に 2 から 3 程度のモデル地区があり、このモデル地区から地域ネットワークの立ち上げを行っていく予定である。

委員長：

ご意見はあるか。所沢市は西東京市と人口の年齢構成、世帯構成などは同じような感じか。

事務局：

規模、世帯数は所沢の方が大きい。世帯数が 14 万 8 千、男女比が半々ぐらいで、平均的な世帯人数が 2.3 人である。面積も西東京市の倍ぐらいある。人口密集地と丘陵、農村部が分かれているのも特徴である。西東京市との類似点は集合住宅が多いところである。

委員長：

他になければ、議題に移りたい。

議題 (1) 西東京市地域コミュニティに関わる基本方針（検討案）について

委員長：

まず、議題 (1) 推進方策の検討について事務局から説明願いたい。

事務局：

資料 3 について説明

委員長：

事務局の説明に対して、意見はないか。

基本方針の内容について、「はじめに」のところで、もう少し西東京市の「顔」が見える記述が欲しい。資料 5 のガイドブックの「はじめに」には、西東京市独自の記載がある。この内容だとこの自治

体に持っていても同じものになってしまう。

ところで、この基本方針の発刊年度はいつか。平成 24 年 8 月と記載してあるが、いつになるのか。

事務局：

日付は年度末にする予定である。

委員長：

「はじめに」のところに、先日の首都直下地震の被害想定政府の発表も少し入れた方がいいのではないか。

委員：

総合計画、基本計画というのが良く分からない。この計画がどのようなものなのか分からないから西東京市の顔が見えにくい。住みよいまちづくりを進めていくことで、防災、防犯などが充実する。コミュニティの活性化の一番の目的は住みよいまちづくりではないか。日本でいちばん住みやすいまちづくりを目的として掲げたらどうか。

委員長：

前回の基本方針案が複雑だったため、シンプルにした分、西東京市の顔が見えにくくなった。西東京市の実情を伝えるような文言があるといい。

事務局：

難しい言葉や表現には注釈を入れるなどの工夫が必要かと感じている。

委員長：

基本方針策定の目的と背景、現状と課題について、何か意見はないか。

委員：

現状と課題の後にまた課題のようなことが書かれている。繰り返が多いように思う。

委員長：

現状と課題のイメージ図を書くのは難しいことだと思う。たとえば現在も行っている現状調査で、過去は全く分からなかったことが、現在、ここまでわかるようになった、将来こんな目標があるといったような図などがあると良いのではないか。そのほうが、説得力がある。

委員：

地域にはいろいろな問題があるので、それを協働コミュニティ課としてどのように支援していくかということをも明らかにしていくことが重要になると思う。

委員長：

資料 5 で、今の話は出てくるので、後ほど議論したい。

事務局：

各部課にはそれぞれ専門知識があるので、協働コミュニティ課で例えば防災の話を具体的に語ることは難しい。

これから考えていく協議体は、地域で抱える課題を吸い上げて、関係機関と話をする組織である。その協議体の支援を協働コミュニティ課が行う。

委員：

協議体の価値をつけていかないと、市民もやる気にならないのではないかと。

委員長：

地域コミュニティのあり方、基本方針などを含め、全体でも結構なので、他にご意見はないかと。

委員：

現状と課題というところがあまりつながっていないので、もう少し具体的に記述したほうが良い部分がある。

委員：

起承転結をイメージして読んで行ったが、そのような形になっていない。結論があってそれにつながる具体策が記載される流れがよいのではないかと。

また、もう少し夢を語ってもよいのではないかと。

委員長：

全体的にリピートが多い。また、西東京市という主語がない。たとえば 12 ページから 14 ページの差はあまりない。1 つでよいのではないかと。西東京市の理想像を描いたほうがよいのではないかと。また、理想像については、今年度できること、来年度できることなどステップがかけると良いのではないかと。

副委員長：

「連携」という言葉が繰り返し使われているが、連携を促進することで何のデメリットが解決されるのかについて書かれていない。自治会・町内会の空白地域について、連携を促進しなければいけないのは、防災面であれば物資が届かないなどのデメリットがあるため必要であるといった具体的な記述があった方がよい。なぜ町内会を作って連携しなければいけないのかが見えない。

委員：

基本方針と具体的な取り組みがわかるような記述にしたらどうか。

委員長：

この基本方針は向こう何年ぐらいのものか。

事務局：

平成 25 年度以降のコミュニティの再構築の取組に活用するものである。

委員長：

年度が入らないものと考えてよいか。

事務局：

本来であれば、総合計画とリンクできればよいが、そのような調整がされていない。

今のところ協議体が形成され、うまく軌道に乗って活用できるようになるためのベースとなるものという位置づけである。

委員長：

具体の年度入れず、協議体がうまく軌道に乗るまでのものという理解でよいか。この基本方針がそのためのものであるということをごどこかに記述する必要がある。課題に対する目標がしっかりと書かれていないから、委員の中でもわからない人が出てくる。協議体がしっかりと動き出せば、この基本方針は要らなくなるということであるが、西東京市としては、それを 5 年以内で実現するのか、それとも 10 年以内で実現するのか、どのような期間で何とかしたいのかを記載しないまでも頭の中にある程度持っていないと方針策定の方向性にブレが生じるのではないかと。たとえば、目的と背景のところ、そういったものを記載してはどうか。

委員：

この検討委員会の目的が計画的なものに感じる。当委員会の目的は、委員会で「こうあってほしい」という意見をあげることであって、それをもとに計画を作るのは行政である。何年に何を具体的にやるのかを当委員会で決めるものなのか。

委員：

コミュニティの活性化の目的が、市の伝達事項をスムーズに行えるような組織作りのように感じてしまう。コミュニティの活性化は住みよいまちづくりのためのものでなくてはいけない。お互いの顔が見えるようになることが大事である。

委員長：

16 ページ及び 17 ページの基本方針のところ、非常時だけでなく日常のつながりによって住みよいまちになるということを入れてみてはどうか。

委員：

所沢市が決して立派というわけではないと思う。試行錯誤の中、徐々に成果が上がってきているものと思われる。

コミュニティを活性化させるのは、本来なら行政でなく住民が率先してやっていくべきことだと思う。防犯、環境などの団体が縦横一緒になって活動することが大切なのだと思う。防災訓練にしても行政に頼るのではなく自治会などのしっかりした組織がないといけない。その体制づくりがスタートになるのではないかな。

地区ごとに団体が集まって、自分たちのまちは自分たちで守るという具体的な話し合いをやっていくようにならないといけない。

昼ではなく夜に震災が起こった場合、誰が指揮をとって子供たちを守るのかということなども含めて話し合う場や団体が無いといけない。

副委員長：

これまで、委員のみなさんから「理想像」が出ているので、それらをまとめて「夢」として記述できればと思う。

委員長：

次の議題に移りたいと思う。

議題（2）模擬事業の検討について

事務局：

資料4について説明

委員長：

事務局の説明に対し、何か意見はないか。

事務局：

模擬事業については、11月17日・18日の実施を予定している。検討委員会のメンバーにもぜひ出席願いたい。田無地区で1日、保谷地区で1日という実施イメージである。

委員：

救護施設が設置される場所にも見学に行ってみてはどうか。

事務局：

できるだけ関連施設を歩けるよう検討する。

委員長：

次の議題に移りたいと思う。

議題（3）西東京市自治会・町内会運営ガイドブック（案）及び西東京市自治会・町内会加入のご案内（パンフレット案）について

事務局：

資料 5・6 について説明

委員長：

事務局の説明に対し、何か意見はないか。文字の大きさは大丈夫か。

委員：

自治会・町内会は、掲載されているものすべてなのか。

事務局：

資料 5 について、自治会・町内会リストはまだこれで全部ではなく、現在回答が来て分かっているものだけを掲載している。

委員長：

第一段階として公表する自治会・町内会は、このぐらいでよいのではないかと思う。

事務局：

最近問い合わせが多いのが、不動産会社や建設会社が自治会、町内会を調べるケースが多くなっており、自治会・町内会からは、行政への公開は良いが、それ以外への情報提供はしっかりと考えてほしいという要望があるので必要最低限の名称だけになっている。

委員長：

市民から自治会・町内会に入りたいという問い合わせがあれば、受けるということか。

事務局：

市民からの入りたいという問い合わせがあればその人には答えるが、電話だけのやり取りだけだと問題もあるので検討する必要がある。

委員：

自治会・町内会のエリア・範囲も示したらどうか。

委員長：

理想形としてはエリアや範囲を示したいが、今年度は難しい。

事務局：

それに加え、まちを跨いでいる場合もあるので整理の仕方は検討したい。

委員：

自治会・町内会リストの中にある自治会が、団地の棟の名前担っているが、本当に棟ごとに自治会があるのか。

事務局：

都営住宅の場合、1棟ごとに自治会があり、団地全体を取りまとめる自治会が別にある。南部地区の調査はこれからになるので、もっとリストが増えることになると思う。

委員：

管理組合が入っているが、この管理組合は、自治会・町内会の要素を持つものなのか。

事務局：

資料に示している管理組合については、すべて確認済みである。

委員長：

ガイドブックにどこまで情報を載せるべきか非常に難しい。

事務局：

その点をカバーすべくハンドブックを作成予定である。

副委員長：

5ページ、6ページは一目見ただけでは「これしか自治会・町内会がないのか」と思ってしまう。注意書きで「その他にもあります」という記述が必要だと思う。

事務局：

このガイドブックの完成は、現況調査がすべて終了した段階で完成ということになる。

委員長：

最終頁は、旧バージョンのほうが見やすい。

事務局：

地図を載せているが、必要か。

委員長：

地図は裏表紙に入れれば良いのではないか。

委員：

旧バージョンでは、社会福祉協議会が高齢者福祉のところに記載されているが、一方新バージョンは掲載されていない。社会福祉協議会の位置づけを踏まえると、どのような載せ方がよいか。

事務局：

載せ方については調整のうえ、検討させてもらいたい。行政機関しか載っていないが、役立ち情報なので、そのほかの機関を載せることも可能だと考えている。

委員長：

パンフレットについてはどうか。

事務局：

ハガキにするかファックスにするかというところで、ハガキだと 50 円切手でお金がかかってしまうのでファックスの方が良いと思われるが、自宅にファックスがない人もいる可能性がある。

委員長：

固定電話があればファックス、固定電話が無い人は E メールでいいのではないか。

委員：

コンビニでもファックスを送ることは可能である。

委員：

加入したい人は、近所の人に聞くと思う。

事務局：

所沢市でも、ファックスなどを使っての加入はあまりないようである。ただし、加入促進を周知する意味では載せた方がいいと考えている。

委員長：

表紙は人がいるのはいいが地図とかぶらないで 4 地区が全部見える方がいいと思う。

委員：

加入しようという記述だけではなく、自治会がないところもあるので作りましょうという記述もあった方がいいのではないか。

事務局：

ハンドブックも出す予定もあるので、今後検討する。

4. その他

(1) 次回検討委員会開催日について

事務局：

次回の検討委員会は、10月29日を予定している。